

# 「静岡赤十字病院研究報」投稿規定

(2009年1月改訂)

1. 本誌は、総説、原著、症例報告、学会報告、各部門研究会記録、施設見学報告などを掲載する。原著と症例報告は、その内容が過去に他誌に掲載されたり（ただし、抄録のみの掲載は該当しない）、あるいは現在投稿中もしくは掲載予定でないものに限る。総説、原著、および症例報告には英文抄録が必要である。
2. 発行は年1回、受け付けは10月1日、締め切りは10月31日とする。
3. 投稿原稿は複数の査読者の査読をへて、編集委員会で採否を決定する。審査の結果、編集方針に従って投稿原稿の改訂変更を依頼する。なお、文章表記等については編集方針に基づき、編集委員会が加筆、訂正を行う場合がある。
4. 初校は著者校正とし、原稿にない大幅な修正や加筆はしない。再校以後は編集委員会にて行う。
5. 投稿原稿はテキスト形式で保存し、メールまたは電子媒体での提出とともに、プリントアウトしたものを1部添えて提出する。
6. 掲載した原稿は返却しない。写真、図については、著者の申し出により返却する。
7. 論文提出時に投稿論文チェックリストも提出する。
8. 本誌に掲載された論文の著作権は、静岡赤十字病院に帰属する。

## ■原稿の書き方

1. 言語は日本語または英語とする。原稿は横書きとし、パソコン（フォントサイズ10～11ポイント、Word文書）を使用し、A4用紙に1ページ460字（和文：23字×20行、英文：半角46字×20行）で作成する。外国語やアラビア数字は半角を用い、変換できない文字や記号は、手書きで明瞭に書き入れる。薬品名は一般名で書く。

**原稿の構成：**表紙、論文要旨、英文抄録、本文、文献、図表、図表の説明の順とする。表紙には、表題、著者名、所属、和文キーワード、図表の数、連絡先（住所、電話、掲載希望者はe-mailアドレス）を記入する。原稿には頁数を表紙から各頁最上段右に記入する。

**論文要旨：**460字以内。

**英文抄録：**英文タイトル・著者・所属および抄録・英文キーワード（A4用紙で300ワード以内）。

**キーワード：**5語以内

**本文：**常用漢字、現代仮名づかいを用い、楷書体で平易明瞭とする。原著は、緒言、対象と方法、結果あるいは成績、考察、結語の順に、症例報告は、簡単な書き出しの後に症例、考察、結語の順に記述することを原則とする。総説はこの限りではない。各章の見出しはローマ数字（I. II. …）による番号付けをし、章の中の項目はアラビア数字（1. 2. …）、項目以下の細分は、1) 2) …を用いる。外国人、地名、雑誌名は原語を用い、活字体とする。

**図・表：**本文とは別にして1枚ずつA4用紙に貼付する。モノクロ写真であること。本文中にそれらの挿入場所を明示し、また、およその縮小率を明記すること。図（写真）で患者名を特定できるような記載はすべて削除すること。

図（写真）は手札型（13 cm×9 cm）以上の大きさでピントが合い鮮明なものを印画紙または写真用紙で提示する。顕微鏡写真には染色法と倍率を明記する。電顕写真にはスケールを表示するバーを入れること。原図の裏に著者名・図番号・天地の指示（矢印）を鉛筆書きする。

それぞれの図表の簡単な説明は別紙に順に記載する。説明文は日本語、英語を問わないがどちらかに統一する。ただし英語の論文では説明文も英語とする。

2. 略語：表題、論文要旨および英文抄録には略語を用いてはならない。本文中にしばしば繰り返される語は略語を用いて差し支えないが、初出の時は本文中にフルスペルで記載し、以下に略語を使用することを明示する。

（例）迷走神経切離術（迷切術）

肝細胞癌 (hepatocellular carcinoma; HCC)  
computed tomography(CT)

3. 枚数制限：原稿の長さは、表紙、論文要旨、英文抄録、本文、文献、図表、図表の説明を含め、総説と原著では40枚以内（図表は20枚以内）、症

例報告等では30枚以内（図表は10枚以内）とする。

#### 4. 文献の書き方

文献は本文中に順次に番号を付け（…との報告がある1,2). …である1~3).) 本文の終わりに番号の順に従って列挙する。著者は3名までを記載し、それ以上は「ほか」「et al」とする。邦文雑誌名は医学中央雑誌，欧文雑誌名はIndex Medicusの省略名に準拠する。

(例)

**a. 逐次刊行物の場合：**著者名. 論文題名. 雑誌名 (略称) 発行年 (西暦) ; 巻号 : ページ (最初と最後).

1) 日赤太郎, 静岡次郎, 追手三郎ほか. 静岡赤十字病院における黒字経営の研究. 日赤医療 2000 ; 92(5) : 192-7.

2) Janecka IP, Sen C, Sekhar LN, et al. Facial Translocation : a new approach to the cranial base. Otolaryngol Head Neck Surg 1990 ; 103 : 413-9.

**b. 図書の場合：**著者名. 書名 (編集者名). 発行地名 : 発行社名 ; 発行年 ・ ページ.

1) 行木英生, 田中一郎. 頭蓋底・顔面組織の一塊切除術と欠損部位の再建手技. 頭頸部がんの境界における治療法の最新の進歩 (犬山征夫監修). 東京 : 協和企画通信 ; 1992. P.33-8.

2) Phillips SJ, Whisnant JP. Hypertension and stroke. In : Laragh JH, Brenner BM, editors. Hypertension : pathophysiology, diagnosis and management. 2nd ed. New York : Raven Press ; 1995. p.465-78.

**c. 電子文献の場合：**著者名. 論文名. 雑誌 [媒体表示]. 版. 出版地 : 出版者. 更新や改訂の日付 [引用日付]. ページ等. アクセス先. ISSN.

1) Linde K, Jobst KA. Honeopathy for chronic asthma. [online]. 東京 : JANCO. [cited 1999-02-06] available from URL. <http://www.nihs.go.jp/cochrane.html>. 464-780 X